

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495400697	事業の開始年月日	令和3年7月1日
		指定年月日	令和3年7月1日
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	グループホームソラスト川崎多摩		
所在地	(214-0021) 神奈川県川崎市多摩区宿河原6-30-25		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年8月17日	評価結果 市町村受理日	令和4年11月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様一人一人の意向に沿ったケアの提供
・毎月開催しているミーティングにおいて、入居者様一人一人のケアの方針や方法を検討する上で、入居者様がどうしたいか？をその方やご家族がおっしゃった発言、生活歴、性格をもとに検討しています。

スタッフの育成

- ・社内オンライン研修システム（ソラスクール）の受講
- ・社内資格取得支援制度の利用（初任者研修の受講）
- ・個別面談を実施し、各スタッフの目標設定と能力、行動評価を行っている。

ICTの推進

- ・介護記録の電子化、各種業務のICT化による業務改善、軽減を実施

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年9月26日	評価機関 評価決定日	令和4年11月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR南武線「久地」駅から5分ほどの、交通の便利な場所にあり、4階建てマンションの1、2階がグループホームとなっています。南向きの建物で日当たりが良く、近くには多摩川の二ヶ領用水である久地の合流点となっています。夏には玄関前の花壇で入居者が花の手入れをしています。コロナであるこの時期には、外出を控えているため、外にあるベンチが利用者は交流の場となっています。

<優れている点>

基本的なアプローチや、普段の何気ない生活をみんなで楽しく過ごし、静かな時を共有しています。調理や配膳、下膳、食器洗いは入居者それぞれが出来る範囲で手伝っています。職員の見守りの中、利用者の身体的な能力に合わせて、お盆を使用したり、プレートでの提供、皿やお茶碗をテーブルに直におく人など、自分で後片付けをしながら食事を楽しんでいます。各ユニットが1階と2階という構成となっているため、上下の行き来を入居者が使いたいとき、自由にエレベーターが使用できるので、居室と共有空間に行くことができます。

<工夫している点>

法人の方針として、電子カルテを推進することで、業務を簡略化し、今まで以上に利用者向き合う時間を大切にしています。コロナ感染防止により、面会がかなわないため、事業所の広報誌と運営推進会議の報告書の中には、利用者の日常生活の様子である写真や、事業所で楽しんでいる様子を掲載しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームソラスト川崎多摩
ユニット名	ユニット虹

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念、事業所目標を策定し、ミーティング等で周知、面談時に説明、事業所掲示し、共有している。	法人理念があり、事業所としては毎年度目標を作成しています。今年度の運営目標は、『スタッフ全員で協力し合い、高め合い、前進する』これは、職員が閲覧する『周知ファイル』でも載せています。家族にも運営推進会議の中でも説明しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染対策上、地域と入居者様の交流は無い。町内会の会合への参加は継続しているが、地域の催しなどは中止。 以前は近隣の保育園と連携し、音楽会、ハロウィンの交流など行っていた。	看護実習は中止となっています。コロナ禍により、保育園の園児とも直接会うことができないので、ガラス越しでの交流で入居者と保育園と関係づくりをしています。町内会活動も少なくなっている中、赤い羽根募金などの支援も行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルス感染対策上、地域への還元ができていない。 以前は看護学校、介護専門学校の実習生の受け入れ等実施していた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染対策上、運営推進会議は書面にて開催している為、話し合いの場を設けられていない。	コロナ禍のため、対面の運営推進会議は自粛していますが、家族には入居者の元気な状況を見てもらうために、運営推進会議の議事録を郵送しています。その際には事業所の広報誌である、「たま通信」で、一人ひとりの写真を載せて発信しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	集団指導への参加（オンライン）。 事故報告書の提出。	集団指導の説明会などはオンラインで対応をしています。日々の業務では介護保険課や福祉事務所と連携しています。難聴者の身体障がい者手帳の更新や、障がい課と障がいの等級の変更についてなど多岐にわたり相談しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束対策委員会を3か月毎に開催している。 身体的拘束に関する指針を周知している。 アンガーマネジメント研修の受講。	身体拘束に関する指針について、マニュアルを完備し、身体拘束に付随したスピーチロックの事例について研修しています。6月には社内規定の勉強会が設けてあり、職員は規定に沿って受講しています。定期的な身体拘束の委員会も開催し、身体拘束のレポートの提出記録も在ります。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を3か月毎に開催し、研修を実施している。 高齢者虐待防止について、社内研修も実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している入居者様が複数名いらっしゃる為、後見人とのやり取り、情報共有をスタッフが実施している。 個別でご家族へ成年後見制度の周知、利用の意思を必要に応じてうかがっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は管理者、入居相談員が契約内容の読み合わせを実施し、不安、疑問点を解消できるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	事業所、法人に相談窓口を設置している。 上記窓口と川崎市、神奈川県との相談窓口も重要事項説明書内に明記している。	職員は入居者の要望を汲み取り支援する事を心掛けています。家族からの要望や相談などにも配慮しています。入居者の親族が高齢の為、事業所対応が難しくなったとの相談にも、成年後見人の説明を行い、代理申請をするなどの事例もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体ミーティングの開催、個人面談を実施し、職員からの意見を機会を設けている。 全社的な職員のアンケートを実施し、その結果を踏まえ改善を検討している。	職員の個人面談は年4回、非常勤は年2回意見を聞く機会を設けています。その中で業務量の調整や働く女性の会などを開催しています。職員からの「人形で安心し、穏やかになった利用者」の事案について、法人より「気付き賞」を受賞し、その後の効果検証も行っています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	全職員と個別面談を実施し、一人一人の目標や課題の共有を行っている。 個別の希望に沿って勤務表の作成を行っている。 コンプライアンス部が発行する衛生委員会資料を周知している。	法人就業規則の定められた年間休日が改定され、108日から123日と、大きく休日が増えるなど、就業環境を整備しています。職員の意見を汲み取り、働き方を改善することで時間を短縮し、効率化を図っています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全職員と個別面談を実施し、一人一人の目標や課題の共有を行っている。 社内研修（ソラスクール）の受講 社外研修への参加の為に勤務調整実施。	職員は法人作成のオンラインによる社内研修を受講しています。職員の都合により受講する事が可能となっています。年間研修計画表により、毎月の研修内容を一覧にし、そのほか必要に応じて研修の追加も行います。社外研修については、介護の免許所得応援制度も整備しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	新型コロナウイルス感染対策上、交流の場を多く設けられていない。 社内他事業所へのヘルプ勤務やオンライン研修にて交流を行っている。 事業所間の交換研修も計画中。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に面談を実施し、ご本人様の生活歴や要望、不安点などを聞き取り、スタッフへ周知、ケアへ反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に面談を実施し、ご家族等の要望や不安点などを聞き取り、スタッフへ周知、ケアへ反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に面談を実施し、アセスメントを作成、ケアプランへも反映させ、ケアの提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様の意思を聞く機会を設け、尊重したケアの提供に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	新型コロナウイルス感染対策上、ご家族の面会を制限させていただく事が多い為、電話や窓越しの面会などの実施にとどまっている。 職員はご家族と電話で情報共有し、意向の確認を行っている。 運営推進会議の配布資料に日頃の様子が分かるよう、写真を掲載している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルス感染対策上、支援できていない事が多い。	コロナ禍により、現在は馴染みの人との直接の対応は自粛していますが、家族と窓越しでの面会や、手紙、写真などの差し入れで、関係継続の支援をしています。病院受診の対応で、家族が同行する場合は帰り道で入居者と一緒に外食や、お茶を飲むなどの時間もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人一人のニーズをくみ取り、食堂での席や机、家具の配置を都度変更するなど支援している。 入居者様同士が関わられるような声かけや、催しの開催を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も必要に応じて情報提供など行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人のニーズをうかがい、ミーティングの場などで職員間の共有を行い、ケアへ反映させている。 ニーズはご本人様が発せられた言葉や行動、生活歴やご家族からうかがった情報を元に把握している。	日常の何気ない会話の中で、希望や生活歴を把握しています。意思疎通が困難な入居者の場合は家族から聞いたり、本人の様子や表情などから汲み取っています。一人ひとりの情報は生活記録や申し送り、ミーティングで共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に面談を実施し、生活環境や生活歴、介護サービスを利用されていた場合、その事業所から情報を共有させていただいている。 入居後もご家族等から情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活記録や業務日誌、各種記録を整備し、職員間の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月ミーティングを実施し、アセスメント実施、ケア内容の検討を行い、それをもとに介護計画を作成している。	全職員がモニタリングに参加し、計画作成担当者が作成しています。モニタリングは基本的には6ヶ月ごとに実施し、新規の場合は1ヶ月後、3ヶ月後と適宜見直しています。カラオケや夕方の時間帯の入浴など、入居者の希望をプランに反映し支援しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録や業務日誌を活用し、職員間で情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人、ご家族よりニーズがあった場合、職員間や、協力医療機関等と連携し、柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナウイルス感染対策上、入居者が直接利用、関わりを持つことが少ないが、地域の商店の利用や町内会への参加（職員）など行っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人様、ご家族の希望があれば、医療機関の変更や連携を実施している（令和4年度1件変更あり）。協力医療機関とは医師、看護師、相談員と都度連携を取っている。	入居者のほとんどが協力医療機関の訪問医をかかりつけ医としています。看護師は、診療記録やバイタルの確認、巻き爪の処置、職員へのアドバイスなど健康管理にあたっています。訪問歯科は毎週来訪して治療や義歯の調整、口腔ケアを行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	生活記録や業務日誌を活用し情報共有を行っている。 また訪問看護師来所時に口頭でも情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に病院へ医療情報提供書や介護サマリーにて情報提供を実施。 入院先病院のカンファレンスへの参加、ホームの受け入れ体制の説明。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約の際に「重度化指針」「看取りに関する指針」「急変時や終末期の延命治療の説明及び意思確認書」を取り交わしている。 ご家族とのカンファレンスの実施。	「看取り」になった際はカンファレンスを実施して家族に看取りケアの説明をし、改めて意向の確認をしています。看取り後は「振り返り」をして反省点や看取りへの思いを共有しています。暮らしの延長線での、慣れた環境の下での「看取り」を実践しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	社内研修（ソラスクール）の受講。 緊急時連絡網の策定、周知。 事故報告書の作成、周知。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練の実施。 近隣の避難場所の掲示と周知。 災害備品、食料の備蓄。	年2回防災訓練を実施し、内1回の「部分訓練」では通報やエリアの危険性を衆知しています。「総合訓練」では夜間・水害を想定し避難経路や誘導、消火器の使い方を確認しています。食料品・飲料水を3日分、カセットコンロ、ランタン、ラジオライトなどを備蓄しています。	災害時の備蓄を職員全員が確認できるように品名、個数、消費期限を記したリストを作成して保管・管理することが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様の人格を尊重した声掛けや対応を心掛け、接遇についての社内研修（ソラスクール）の受講。	排泄への声掛けは直接的な言葉を避け、さり気なく誘導する工夫をしています。お茶の時間の飲み物の選択や自由なエレベーターの使用など本人の意思や自己決定を大切にしながら支援しています。個人情報鍵のかかる書棚に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様との信頼関係を築き、入居者様が希望を表出しやすい関係性を目指し、ケアにおいても入居者様の意向を確認するよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人の意向を聞き、意向に沿った過ごし方ができるように支援する事を心掛けています。 その日の体調にも留意し支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一人一人の意向、趣向に沿った身だしなみの支援、訪問美容の手配をしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人一人の既存能力に沿った食形態での提供。 食事作り、配膳、下膳など、有する能力に沿った参加ができるよう支援しています。	栄養士が作成したメニューの湯煎食品を業者に委託し利用しています。入居者は米研ぎ、盛り付け、配膳、お茶汲みなどに参加しています。土用の丑の日には鰻を、誕生日にはリクエストメニューを、また焼きそばパーティーなどイベント食を提供して支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事は栄養士が考案した献立を使用。 (宅配湯煎食) 食事量や水分量は生活記録に記載して過不足が無いよう確認している。 一人一人の趣向に沿った飲料の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアのお声掛けや援助を実施し、訪問歯科より指示や助言をいただいた場合、支援に反映している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の既存能力に沿い、尊厳に配慮しながら排泄支援を実施している。 一人一人の排泄間隔を考慮し、お声掛け等行っている。	「個人生活記録」で入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しています。トイレ誘導では直接的な声掛けを避け、さり気なく誘導することを心掛けています。定期的な誘導により介助を必要とした入居者が自力で便座に座れるようになった改善例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	主治医、訪問看護師と連携し、頓服薬の調整、提供を行い、排泄状況は生活記録へ記載している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴実績を生活記録、別紙記録に記載し、間隔が空き過ぎないようにお声掛けを行っている。 一人一人の特性に応じた入浴環境の整備を行っている。	入浴は週2回とし、必要に応じて適宜対応しています。見守りや部分介助の人がほとんどで、ADL（日常生活動作）の低い人には2人介助やシャワーチェアを利用して対応しています。拒否の強い人にはタイミングを図りながらの誘導を試みています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人の意向、健康状態に沿って休息いただけるよう支援。居室環境の整備を実施している。 睡眠状況も生活記録へ記載し、必要であれば訪問医へ相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局と連携し、処方の際に効用や副作用の確認を実施。 薬情を事務所で確認できるように管理している。 業務日誌等で周知し、観察実施。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様のやりたい事などを聞き取り、実施できるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナウイルス感染対策上、外出はほとんど敷地内程度で行っている。 草花の水やりなど実施できるよう支援している。	コロナ禍で散歩などの外出は自粛しています。施設の敷地内を歩いたり、ベンチでお茶を飲みながら外気浴をするなど気分転換を図っています。季節を感じる楽しみとして、野菜を育てるなど土いじりをするなどの支援も行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	意向がある方には金額を少額とさせていただいた上で所持していただいている。 また、金庫内で管理させていただいている方へもその旨ご説明し、使用する際は使用できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	意向に沿って実施できるように支援している。 携帯電話を所持されている方はホーム内で利用できるようにしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日清掃、消毒を実施している。 年に1回外部機関へ床の清掃を依頼している。 刺激に関して、入居者様の言動をもとに調整している。 季節に沿った飾り付けなど実施している。	1・2階フロアが縦割りで建物の左右に各ユニットがあります。入居者は自由にエレベーターを利用して1・2階を行き来しています。リビングのテーブルにアクリル板を立てて感染予防をしています。広い玄関ホールには1人、或いは数人で寛げる小テーブルとイスを置いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂の家具の配置の変更や、エントランススペース、和室（多目的室）の環境を整備し、思い思いに安全に過ごせるようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具やなじみの物品について、生活上のリスクが無いものであれば原則お好きなものをお持ちいただいている。 居室担当が主体となり、居室環境や主事品の整備を実施している。	エアコン、洗面台、クローゼットが備え付けです。入居者は使い慣れた小物入れなどの家具や仏壇、思い出の品を持ち込んでその人らしい部屋になっています。居室担当職員が環境整備、衣類管理、アセスメントを行い、居心地の良い居室作りを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	必要に応じて案内表示など作成し、過ごしやすいようにしている。 不備などあった際は早急に対応し、危険が無いよう、環境整備や保全を実施している。		

事業所名	グループホームソラスト川崎多摩
ユニット名	ユニット空

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を設定しミーティング個人面談で共有し実践している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に参加し、コロナ渦までは近隣の保育園との交流をしていた		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	医療機関への受診、理容の出張サービスを行っている。コロナ前までは買い物や外食等で外出もしていた		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営状況の報告や入居者様の写真を載せた、たま通信を送っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護担当者や、介護認定調査員への情報提供を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	すべての職員がオンライン講習で学び、ミーティングや面談で周知実践している		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の事例を参考に勉強会等で適切なケアが出来ているか振り返り確認している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全ての職員がオンライン研修で学ぶ機会があるが理解が十分とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者、入居相談員が説明し、不安や疑問点は都度相談に応じている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や入居者の近状報告をし意向や要望を伺い迅速に対応できるよう心がけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	面談、ミーティングや申し送り時など基本的にいつでも意見は言える環境であり、提案などは管理者会議で報告している		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	衛生委員会を立ち上げ職場環境の整備に努め、労働安全衛生法に基づくストレスチェックを行っている		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の参加・OJTを行いトレーニングを重ね実践に活かすケアを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	代表者は同法人のグループホームを全国展開し管理者は毎月オンラインで管理者会議を行い交流を行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の事前情報を参考にご本人と話す機会を設け要望に沿えるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の面談や見学の際に疑問点や要望について伺い情報交換を行いながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前にアセスメントを行い初期対応の質の向上に努め必要に応じて他サービスの利用のご提案をしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者個々のペースに合わせ調理、清掃、行事の準備などを一緒に行い協力関係を築いている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	近状報告など情報交換を行い支援方法などの相談や報告を行っている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	馴染みの人については電話や訪ねてきて下さる事もあるが、場所はコロナ渦もあり現状できていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の性格と利用者同士の関係を理解し、円滑にコミュニケーションが取れるよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終末期を経ての契約終了が多い為、関係継続はあまりないが転居された場合は情報交換をし連携を行っている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の要望を聞きスタッフ間で共有し可能な限り希望に添えるよう支援している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談で本人や家族に伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活記録をつけ申し送りやミーティングで情報共有を行い心身状況の把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月の職員会議で意見交換を行い日々の業務で情報共有や評価を行い家族への情報提供と相談を行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	具体的な会話の内容、入居者の反応などを個人記録に残し申し送りや会議で共有し介護計画立案と見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時の状況や本人、家族の希望に合わせて臨機応変に対応できるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ対策のため入居者の外部との接触は無いがスタッフは町内会の参加を行っている		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族が希望する場合は入居後も継続してかかりつけ医の往診も自由に行うことができる。また協力医による月2回の往診、歯科医の診療を月4回行い関係を構築している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日バイタルチェックを行い体調の変化や排泄状況、水分量と食事量を記録し訪問看護師に情報提供している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関からの入院先への情報提供と紹介状を用意し事業所との連携を行っている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族に対し状況の変化を随時報告し意向の確認をしている。その際に事業所で出来ることの説明し個別の対応マニュアルを作成し、ご家族の意向に沿えるよう取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の行動マニュアルと連絡網を作成し緊急時に備えている。事故が起きた際は繰り返さない為の防止策を共有している		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	飲料水と非常食の確保、年に2回消防署の協力を得て利用者や避難訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	社内研修で認知症の理解に努め、本人の意向を確認しながらの支援に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	会話や作業を通して信頼関係を築き要望を言いやすい雰囲気作りをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースで暮らせるよう出来る限り要望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の趣向に沿った服装で自由に装っていただいている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者に沿った食形態での提供をし、食事作りに参加できるよう出来ることを見極め支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士考案の宅配食を提供し、食事量・水分量を記録し確認している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後お声がけをし、利用者に合わせた口腔ケアを行っている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	生活記録から個々の排泄パターンを把握し、身体機能に応じて支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄状況をチェックし主治医指示のもと下剤や頓服薬の調整を行っている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴記録をつけ、週に2回を目安に入居者の希望や状況に合わせて対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の健康状態にあわせて休息支援し、不眠が顕著であれば医師に相談し支持を得ている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の情報をファイルし確認できるようにしている。変更時には申し送りでも周知し誤飲がないようスタッフのダブルチェックで服薬している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご本人やご家族に趣味趣向を伺い好きなことが出来るよう支援している		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナウィルス対策で外出は出来ないが施設内で日光浴や水やりなど出来るよう支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の状況に合わせて自己管理できる方は家族と相談のもと少額所持していただいている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望があれば対応し、ご家族からの電話を取り次ぐ事もある		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日消毒・清掃をして清潔を保ち入居者と季節の装飾品を飾り季節感を出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室で利用者同士で将棋ができるよう整備し、エントランスでも休憩できるようにテーブルと椅子を設置し、食堂以外に休憩スペースを作っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の愛用していた家具・仏壇・家族の写真などを配置し、自分の空間が作れるよう配慮している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自分の居室とわかりやすくなるよう表札を使用し、階段・トイレ・浴槽に手すりをつけ二階の柵を高くするなど環境整備している		

2022年度

事業所名 グループホーム ソラスト川崎多摩
 作成日： 2022年 11月 18日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時に備え、災害備品、備蓄品の品目や個数、消費期限を全職員が確認できる仕組みを作る。	災害への備えを整え、全職員が共通の認識を持つ。	災害備品、備蓄品のリスト作成。防災訓練時に見直しの機会を設ける。自然災害BCPの周知。必要に応じて見直しの実施。	3ヶ月
2	19	新型コロナウイルス感染症対策の為、ご家族との面会を制限させていただいている為、ご家族と入居者様のつながりが作れていない。	入居者様が安全にご家族と関われる機会を設ける。	新型コロナウイルス感染状況に合わせた面会制限の緩和の実施。面会を制限する場合も、ご家族と入居者が関われる機会の創出。	3ヶ月
3	29	新型コロナウイルス感染症対策の為、入居者様の外出の機会や地域との直接的な関りの機会を設けられていない。	地域資源との協働を入居者様が実感していただけるような機会、場面の提供。	新型コロナウイルス感染状況に合わせた外出機会の創出や、安全に地域資源と協働できる場面の創出。	6ヶ月
4	27	業務のICT化に伴い電子化された記録ソフトの、より有用な活用ができていない。	電子記録による利点を活用し、入居者へのより良いケアや、業務の効率化、生産性の向上につなげる。	電子記録の機能についての理解を深め、入居者様の情報の効率的な抽出、周知により、カンファレンス時の情報量の向上、質の向上を目指す。	6ヶ月
5	14	職員の資格取得を進めていきたい。資格未所持の職員も在籍している為。	職員の資格取得に関して、社内の研修制度を活用しながら、資格取得を目指す。	介護福祉士取得を希望する職員への実務者研修の受講、無資格の職員への初任者研修や認知症介護基礎研修の受講を目指す。	12ヶ月